

5月のことば
 ～情緒の安定③ 「聞く」

風薫る季節。春先の移動や異動から一ヶ月。大人も子どもも時間・場所の流れや意味がわかり、生活に見通しがついてくると、情緒が安定してきます。

心静かに……の中こそ、「待つ」「聞く」「集中力を保つ」「葛藤を処理する」「協調する」等という人間としての高度な行動と考えが宿ります。

「聞く」

歴史上の偉人達は、実は皆話を聞く天才ばかりです。

現在の24時間可能な“情報を知る”という事と、“話を聞く力”は別のもの。

人の“話しを聞く力”は体得が必要であり、人間としての資質を決定します。

しかし、人が話しを聞く為には、とある条件が必要。

それは、

- ① 毎日の生活のどの場面で話しが始まるのか？何分程の話しなのか？
 どんな趣旨なのか？ 等の見通しがついている事 と、
- ② 内容がその子（人）の発達段階（程度）に合っている事… です。

例えば

- ① 朝の挨拶、園歌の後の季節の話し。靴を揃えて服を着替えて、指導前のお約束の話し。
 昼下がりに風葉のそよぎを感じつつ聞く昔話。夜 お布団に入り聞くお母さんの子守唄と童謡…等は、いずれも話しの見通しと無言のルールがついています。
- ② 又、「絵本の読み聞かせ」で、乳児は丸の中に丸がある（おっぱいの）形や、パピポペポを好んだり。幼児ではア → と上がる音を好み、「あ」「お」が心を開かせる音 となるように… 発達に合っている事も聞く為には大切な要因です。

今我々は、「便利だから」「楽だから」といってテレビを視させたり、子どもが本来自然と身につけるべき生活のルール、聞くルールを自ら壊しておいて大声で「人の話しを聞け！」と怒鳴りつけてないか … と、五月 緑に思うのです。